2021年11月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第538号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

反帝国主義の再生に向けて――□■□
『リビア戦争　カダフィ殺害誌』を出版

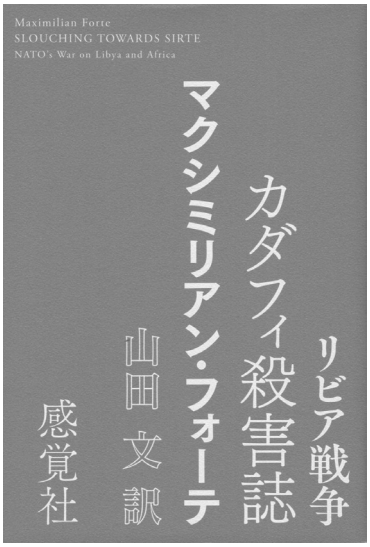
文／感覚社代表　嶋田 頼一

はじめまして、感覚社と申します。本年2021年4月、弊社出版物の第1号として地方小扱いで『リビア戦争　カダフィ殺害誌』という翻訳書を出版しました。

この本は、2011年に起きたNATO（北大西洋条約機構）によるリビアへの軍事介入（以下、リビア戦争）を徹底的に批判する本です。著者は、カナダ・モントリオールのコンコルディア大学で政治人類学を教えるマクシミリアン・フォーテ氏で、原著は同じくモントリオールの出版社バラカ・ブックスから2012年11月に上梓されました。

まず、本書の紹介に入る前に、リビア戦争についての一般的な見方を振り返ってみます。

2010年終わりに北アフリカの国チュニジアで始まった「アラブの春」が隣国リビアにも波及し、2011年2月15日、東部の都市ベンガジで反カダフィデモが発生。つづく数日間に国内各地で民主主義を求めるリビア国民が平和的なデモに立ち上がったが、「残虐な独裁者」ムアンマル・カダフィは、他国から呼び寄せた黒人傭兵や自国の空軍を使って国民に対する大虐殺をおこなった。そして3月19日、米英仏を中心とするNATO諸国が、カダフィによる差し迫った「ジェノサイド」からベンガジの人びとを守る「人道的介入」としてリビアへの軍事攻撃（空爆）を開始。その後NATOが支援する反政府勢力と「カダフィ軍」との7ヶ月間の戦闘の末、10月20日、生まれ故郷シルテに逃亡していたカダフィは反政府勢力の手で捕獲・殺害され、ついに民主主義を求めるリビア国民の熱望は達成された――。



『リビア戦争　カダフィ殺害誌』マクシミリアン・フォーテ著／発行：感覚社／四六判／本体価格：4300円／ISBN978-4-909828-00-2

本書は、そうした見方のなかに潜む様々な〈虚構〉を明らかにしていきます。上述のとおり、欧米の軍事介入はカダフィの「ジェノサイド」からベンガジを守るという「市民の保護」を公式の目的としていましたが、本書が検証するように、そもそもカダフィはそうした「ジェノサイド」を計画すらしておらず、デモ隊に対する虐殺もおこなっていませんでした。カダフィは、当初より武器を捨てた者には恩赦を与えると述べ、繰り返し話し合いによる紛争解決を求めていたのです。カダフィによる「ジェノサイド」や大虐殺とは、反政府派が欧米の軍事介入を呼び込むためにでっちあげたまったくの虚偽であり、CNNやBBC、アルジャジーラなどの著名メディアは、事実を検証することなく、「伝聞」をもとにそのニュースを世界中に拡散したのでした。

さらに本書が検証するリビア戦争の〈虚構〉に、「カダフィ軍」による集団強姦疑惑があります。リビア戦争を推進した中心人物のひとりである米国務長官のヒラリー・クリントンは、2011年6月、カダフィが自軍の兵士にバイアグラを配り、リビア人女性を集団強姦させていると主張しましたが、これもまったくの虚偽でした。当初カダフィによる「人権侵害」を誇張して伝え、戦争開始に大きな役割を果たしたアムネスティ・インターナショナルでさえ政府軍による集団強姦の証拠は見つからなかったと述べ、国連人権理事会のリビア国際調査委員会も2012年の最終報告書で、カダフィ側に集団強姦の政策があったとは言えないと結論づけました。フォーテは述べます。「リビアでバイアグラを使った集団強姦がおこなわれたという主張は見苦しく卑しいものであり、力を持ち偽善的な者に支配されたときに国際世論がどれだけ恐ろしく堕落するのかをしめしていた」。

軍事介入が始まった9日後の3月28日には、米大統領バラク・オバマがベンガジをカダフィの「ジェノサイド」から守るという軍事介入の目標は達成されたと宣言しました。オバマは当初「体制転換」、つまりカダフィ体制の打倒は軍事介入の目的ではないと述べていましたが、オバマが上記の宣言をした後もNATOは空爆をやめず、カダフィの住まいに対する爆撃までおこないました。このことからも明らかになったのは、やはりNATOの軍事

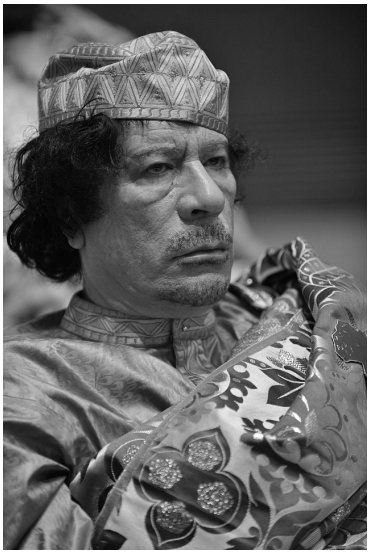
介入の目的は、「市民の保護」という人道的なものではなく、第三世界の独立国を軍事力で破壊するという帝国主義的介入だったということであり、「市民の保護」は戦争開始のための口実に過ぎなかったということでした。

そしてカダフィの生まれ故郷であり、カダフィの支持基盤であるリビア中部の都市シルテは、最終的にNATOの空爆と反政府勢力の無差別攻撃により徹底的に破壊され、カダフィだけでなく、カダフィを支持していた多くの市民が殺害されました。リビア戦争でもっとも大きな被害を受けた街は反政府派の拠点であるベンガジではなく、カダフィ派の拠点であるシルテでした。それではなぜシルテがNATOと反政府勢力の徹底的な破壊と大量殺戮の対象となったのでしょうか。

リビアの首都は、一般的には西部の都市トリポリとされていますが、カダフィは1969年の革命後、国内の首都機能をかつてのイタリア植民地支配時代の名残があるトリポリからシルテに移動させ、その街を新しい首都として発展させてきました。そして、本書の文脈で最も重要なことは、当初ナセルの汎アラブ主義に影響を受け革命家になったカダフィは、革命後徐々にアラブから離れ、アフリカ独立運動の父と言われるクワメ・ンクルマの汎アフリカ主義とアフリカ合州国の構想を受け継ぐようになっており、将来的にシルテをアフリカ合州国の首都にしようと計画していたということです。

1999年9月9日、リビアも加盟するアフリカ統一機構（OAU）は、組織を発展改組しアフリカ連合（AU）をつくることを決議しました。それを主導したのもカダフィであり、その決議はシルテで開催されたOAU首脳会議で採択されたことから「シルテ宣言」と名付けられました。カダフィはAUの設立をアフリカ合州国実現への第一歩と考えており、豊富な石油収入を使って外交的にそれを推し進めたのでした。

一方、こうしたカダフィの動きは、一部のリビア人には許せないものと映りました。とくにカダフィが打倒した旧王政の拠点となっていたベンガジを中心とするリビア東部の人々は、カダフィの革命によって王政時代の自らの



ムアンマル・カダフィ。2009年2月、エチオピアの首都アディスアベバで開催されたアフリカ連合首脳会議にて。（写真：パブリックドメイン）

特権が奪われたと考えており、シルテの発展そのものに不満を抱いていました。またカダフィが自国の金をアフリカの発展のために使うことは、歴史的に黒人を奴隷とし現在も差別の対象としているアラブ系リビア人にとっては反発を覚えるものでした。そのような社会状況のもと、カダフィの生まれ故郷であり、将来アフリカ合州国の首都という輝かしい地位を得るはずだったシルテは、反カダフィ派にとって徹底的な破壊の対象となったのです。

また、米国と中心とする欧米諸国も、アフリカの欧米からの自立を目指すカダフィの汎アフリカ主義を警戒していました。カダフィは1988年のロッカビー事件（米パンナム航空103便爆破事件）を原因とする長年の国連制裁によって国際的に孤立した状態が続いていましたが、事件の容疑者とされる人物を欧米に引き渡し、さらに2003年に大量破壊兵器開発計画を放棄したため、米国とは和解することになりました。しかし、カダフィはあくまで欧米の「帝国主義」に屈したわけではなく、欧米との緊張緩和と自国の豊富な石油収入を利用して、自らの野望、すなわちアフリカ合州国設立の実現に向けてアフリカ内で着々と影響力を強めていきました。それがアフリカの資源と市場を支配したい米国にとっては自国の野望の障害と映り、カダフィの「反帝国主義」の象徴する街となっていたシルテは徹底的に破壊すべき対象となったのです。

こうしたリビア国内の一部と欧米諸国の反カダフィ感情のもと、リビア戦争をつうじて、シルテとともに反カダフィ派の最も激しい攻撃の対象となったのは、リビア国内の黒人リビア人およびアフリカ系外国人労働者でした。本書が詳細に検証するように、紛争当初に反政府派が発信し、マスメディアを通じて広まった「リビアに黒人傭兵が押し寄せ、デモ隊を虐殺している」という話は、欧米の軍事介入をリビアに呼び込むためのまったくの虚偽でした。フォーテは述べます。「対リビア戦争を正当化する数々の虚構のなかで、〝アフリカ人傭兵〟の虚構はとりわけ悪意があり執拗なもののひとつだった」。そして、当初カダフィによるジェノサイドが起こるとされた「ベンガジの近くで起こった虐殺といえば、〝傭兵〟だと誤って非難された何の罪もない黒人アフリカ系移住労働者と黒人リビア人の虐殺と、退却中の小規模な政府軍の虐殺だけだった」。NATOの軍事介入の間、現実に「ジェノサイド」の被害にあっていたのは、ベンガジにおいても、トリポリにおいても、シルテにおいてもNATOが支援する反政府勢力が標的にした黒人市民だったのです。しかし当初「市民の保護」の名の下にリビアへの軍事介入を提唱した人びとは、反カダフィ派による黒人へのジェノサイドには沈黙しました。リビア戦争を「人種差別的戦争」と位置付けるフォーテは述べます。「これが〝人道主義〟なのであれば、アフリカ人は人間ではないと言っているようなものだ。そして、実際の軍事介入では、まさにそのとおりの行動が取られた」。

以上、弊社刊『リビア戦争』をざっとかいつまんで紹介してきました。本稿では触れられなかったことも多く、特にネルソン・マンデラとカダフィの固い絆や、現在世界中で戦争を推進する主要当事者になっているヒューマン・ライツ・ウォッチやアムネスティ・インターナショナルなどの「国際人権団体」への批判、またそもそもカダフィは「独裁者」であったのかなどの検証については、ぜひ本書を手にとって読

んでいただきたいと思います。

また、なによりも本書の目的は、本来NATOの軍事介入に断固として反対すべきでありながら、反帝国主義よりカダフィ「独裁」批判を優先することで、リビア戦争を推進する役割を果たした「先進国」左派を批判することにあります。

「彼らの見解では、カダフィは独裁者であり欧米の協力者ですらあって、擁護されるべきではなく追放されねばならなかった。したがって彼らは帝国ではなく、カダフィを問題にすることに同意したのだ。」

本書が、日本の多くの市民や左翼（現在おもな組織や個人は右翼よりも強く反中国を掲げることで日本社会の排外主義を後押ししている）のみなさんの国際情勢理解の一助になればと願ってやみません。

＊

（しまだ・よりかず／感覚社代表）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

弊社のホームページでは半年前までの本誌バックナンバーをアップしております。また「新刊ダイジェスト」のバックナンバーもたくさん掲載してます。
アドレスは下記の通りです。右記のＱＲコードもご利用ください。
URL：http://neil.chips.jp/chihosho/

『痛風の朝』●キンマサタカ著

本を開くと、まず目に飛び込んでくるのが筋子とウニのカラー写真。実に美味しそうだが、ある病気を持つ人にとっては目の毒である。それは「風が患部に吹きつけるだけでも痛い」から名付けられたと言われる痛風（高尿酸血症）。プリン体が体内で分解されてできる物質、尿酸が過剰になると関節にたまって結晶化する病気だが、暴飲暴食の後、足の親指の付け根辺りが腫れ、激しく痛むのが最初の症状に多い。痛風あるあるで酔った勢いでどこかにぶつけて骨折したのかと思ってしまうほど。しかし、お互い痛風持ちだとわかると、同志の存在が心強く、奇妙な連帯感が生まれる。

本書はおそらく本邦初、いや世界初の痛風アンソロジー。各界から当事者が痛風に関する思いを語り尽くす。恐怖、懐古、後悔はあるが、発作は薬で治まるため、酒やプリン体の多い食べ物をやめられない、どことなく微笑ましい生き様が共通している。「痛風は出来の悪い弟子みたいなもの」と語るお笑いコンビ錦鯉の渡辺隆。痛風持ちの刑事を主人公にした作家黒川博行のインタビューもあり、痛風を人生、喜劇、文学、旅になぞらえる語り口も冴えている。

95％が男性患者で、女性はなりにくいとされているが、本書では傍観者として２名だけ女性が登場。こんな閉塞した時代に痛風と上手に付き合っている、深刻だけれどクスリと笑わせてくれる愛すべき男性たちに拍手を送りたい。

（Ｙ）

◆ 1500円・四六判・193頁・**本の雑誌社**・東京・202108刊・ISBN9784860114619

『幻影　大津事件と津田三蔵の手紙』●岡本光夫著

明治24年（1891）5月、日本訪問中のロシア帝国皇太子ニコライが、滋賀県大津市内で沿道警備の津田三蔵巡査によって切りつけられ、深手を負った事件は、多くの小説の題材になり、裁判を巡っては、超法規的厳罰を求める明治政府に、大審院長児島惟謙が法治国家としての法の遵守を断固貫いたことなど、今も語られることが少なくない。

しかし津田の犯行動機は、警察に残された取調調書や裁判準備の供述調書から窺い知ることはできない。それが近年、故郷三重県上野市と四日市市の旧家から、凶行１ヶ月前までの10数年間に母や縁者に宛てた76通もの手紙が発見され、糸口が見えてきた。藤堂藩の御典医であった父は、藩主の咎めを受けて江戸追放となる。この不名誉は６歳の少年であった津田の心に深く刻まれた。成人した津田は、家名挽回のために明治天皇への忠義を誓って軍隊に志願する。その心情を綴った手紙だけでも48通になる。西南戦争では決死の働きで勲章を受け、これを生きる支えとした。

だが、朝敵西郷隆盛は生き延びてロシアに脱出し、日本侵略を目論む皇太子と共に戻って来るとの噂に幻惑され、鞄の底に勲章、サーベルに日本刀を潜ませて警備に立つ。凶行１ヶ月前までの手紙を子細に読み解き、追い詰められ病んでいく心の乱れを筆跡の変化の中に見出す。家と時代に翻弄された「ひとりの人間としての津田三蔵の生き様」がありありと浮かび上がってくる。（飯澤文夫）

◆ 1000円・四六判・140頁・**サンライズ出版**・滋賀・202108刊・ISBN9784883257362

『地域モビリティの再構築』●家田仁、小嶋光信ほか著

大都市以外の地域では、公共交通は以前から危機に瀕していました。そして昨今のコロナ禍の中で、赤字路線を支えてきた事業も大きくその利用者を減らしてしまいました。テレワークの普及等で以前の水準まで利用が回復するのは難しく、危機はさらに深刻になっています。そんな中で地域の公共交通の再生のために何をすべきなのか。

本書では様々な論者による提言がなされています。何人かの論者はITの活用ということを指摘しています。しかしここで言われているのは、需要に合わせた最適なダイヤを構築したり、利用者に便利な決済システムの導入など、どちらかというと「地味」なものです。自動運転などの技術も否定されてはいませんが、そうした華々しい技術を頼りにするだけでは地域交通の再生には厳しいものがありそうです。そのほかにも移動の自由は自助任せにしてもいいものだろうかという社会思想的な課題から、オンデマンド交通にしたらキャパシティの問題でかえって利用促進を図れなくなってしまったという現場レベルの問題まで幅広く論じられています。とりわけ出色なのは名古屋大学の加藤博和氏の論考でしょう。潜在的な需要を掘り起こすことは、新しいライフスタイルを提案すること、というのは地道に公共交通再生に携わってきた人ならではの言葉といえるのではないでしょうか。本書に示されている様々なアイデアが生かされて、厳しい状況にある公共交通が復活することを願います。（副隊長）

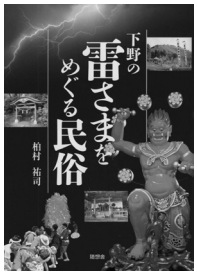
◆1700円・A5判・291頁・**薫風社**・埼玉・202108刊・ISBN9784902055412

『「宇治拾遺物語」夢説話の研究』●趙智英著

鎌倉初期に成立したとされる『宇治拾遺物語』は、院政期に成立した『今昔物語集』と並び、中世を代表する説話集の一つである。宇治大納言と呼ばれる人物が道行く者を身分を問わず呼び集め、様々な昔話をさせて、それを書きつけたのが佚書『宇治大納言物語』であり、そこから漏れた話題を拾い集めたり、追加したりしたものがこの『宇治拾遺物語』である、とされる。収載一九七話のうち夢が組み込まれた説話は二五話あるが、本書はそれら夢説話中の夢の機能を考察するとともに、そこから『宇治拾遺物語』編者意識とその叙述の特質に深く分け入ろうという研究書である。本研究の優れた特徴と言えるのが、具体的な夢説話の考察過程において類話・同話を『今昔物語集』をはじめ過去の古典作品から拾い上げて展開構造やディテールの異同を比較していく際、韓国の古典作品もそこにいっしょに並べて比較対象としている、ということである。例えば、吉備真備と思われる登場人物が「夢解きの女」から、他人の夢を買うという第一六五話「夢買人事」の考察においては、日本の『曽我物語』中の北条政子の夢説話とともに韓国の歴史書『三国遺事』や『高麗史』中の類話を拾い、比較対照している。海外事例の詳細が見て取れるとても貴重な機会となる。またこれとは別に著者は、『宇治拾遺物語』夢説話が教訓的な仏教説話の枠を踏襲しながらも『今昔物語集』などに比べて物語自体の面白さを追求し、より世俗化されているという点を繰り返し強調している。（N）

◆3600円・A5判・497頁・**金壽堂出版**・奈良・202012刊・ISBN9784903762272

『下野の雷さまをめぐる民俗』●柏村祐司著



栃木県は隣の群馬県と並んで、全国有数の「かみなり県」と言われる。これは、北関東の西部から北西部にかけて標高1000～2000メートル級の山々が連なり、夏期に太平洋上で発生する高気圧から吹き込む湿った風がその斜面を一気に駆け上って雷雲が発生しやすくなるためである。また栃木県のような内陸部では夏の太陽の熱を受けて地面が温まり、上昇気流が生じやすい。多発する雷は落雷や突風、降雹などの被害をもたらす一方で、恵みの雨をももたらす。このような気候条件のもとで人々は脅威となる自然現象としての雷に対してどのような文化を形作ってきたのだろうか。

本書は、栃木県内の雷神信仰にまつわる神社の由来や分布、風習、民話、伝説等を網羅した民俗現象の資料集である。この中でとくに興味深く思われるのは、他地域でも共通して見られる落雷除けの風習について記録された部分であろう。例えば、雷が鳴った時にクワバラ、クワバラと唱えながら蚊帳の中に入るという風習が栃木県内でもかつて見られたが、そもそもこのクワバラとは何のことだろう？どうやら天神様、つまり藤原道真公も何やら関係があるらしい。また、小正月の15日に小豆粥をかき混ぜる粥かき棒を雷の時に燃やすのがなぜ雷除けになるのだろう？さらに、荒ぶる神としての雷神は、一方で恵みの雨をもたらす水の神でもあるが、霊験あらたかな雷神社の湧き水を持ち帰り雨を招く呼び水として用水などに注ぐといった雨乞いの風習についても多く記録されている。興味深い事例が尽きない。（U）

◆1800円・A5判・199頁・**随想舎**・栃木・202107刊・ISBN9784887483941

『水辺の写生帖』●柴野邦彦著

著者は日本初のフライフィッシング（ＦＦ）同人誌『ＦＦＪ』（1982～2005）の創刊メンバー。日本のＦＦシーンを黎明期から文化的に牽引してきた。画家・文筆家としての著作多数。本書はＦＦ専門誌への連載記事と書き下ろし作品を一冊に編んだ美しい画文集である。釣り人が水辺に身を置いた時に漏れる吐息を絵の具に置き換えたような水彩画に、体温を感じる文章スケッチが寄り添う。時折り挿入される手描き文字の散文詩も味わい深い。「毛鈎を六本取り換えて　魚が三度それを食って　二尾釣り上げた　それだけのために８時間　その間に石油の値段が上がり　ニューヨークで株が下がった　永田町で政党が泥を投げ合い　千葉で女子大生が殺された　近所で認知症のおばあさんが行方不明になった　午後には北風が吹いた　…　そうして　一日が過ぎた」（釣りの一日）疫病にしろ環境問題にしろ人類を焼く業火は勢いを増し、世の中の先行きはますます見えづらい。川をゆく釣り人は先が見えないからこそ、次のカーブの向こうにはきっと楽園があるはずと、期待を込めて足もとの一歩を踏み出す。「明日、戦争が起きようともヤマベ釣りをしてやるぞ、と思った。」（ヤマベ釣り）。釣りをやらない人にこそ手に取ってほしい。著者自身が発行者となり出版流通へ本格的に関わることになった最初の一冊が本書。より自由で覚悟の座った表現の場を手にしたように見える。

（フライの雑誌社・堀内正徳）

◆2500円・Ａ５判・115頁・**プロモビス**・東京・202109刊・ISBN9784991225406

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2021年9月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**Radiation Environment and Medicine** Vol.10 No.2 弘前大学出版会編　Ａ４　121頁　１１００円　弘前大学出版会　［青森］　978-4-503-22413-2　21/09

◆**Ｓ－style** 10 vol.682 プレスアート編　298mm × 232mm　135頁　４５０円　プレスアート　［宮城］　978-4-503-22427-9　21/10

◆**コレカラの教科書　－Ｓ－style Kappo 臨時増刊** プレスアート編　Ａ４　88頁　９００円　プレスアート　［宮城］　978-4-503-22430-9　21/08

◆**会津人群像** No.42 阿部　隆一編　Ｂ５　188頁　１５００円　歴史春秋社　［福島］　978-4-89757-991-7　21/08

◆**GREEN REPORT** ５０１　２０２１年９月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５４６円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-909864-33-8　21/09

◆**響き合う街で** No.98 2021年8月号　やどかり出版編　Ｂ５　62頁　１２００円　やどかり出版　［埼玉］　978-4-503-22417-0　21/08

◆**ほほづゑ** 第１１０号　長谷川　智恵子編　Ａ５　117頁　５５６円　三好企画　［千葉］　978-4-908287-40-4　21/10

◆**かまくら春秋** No.616 ２０２１年８月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　105頁　３２７円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-7740-0838-7　21/08

◆**くらしと教育をつなぐ　We** No.234 2021年10／11月号　中村　泰子編　吉田　真紀子編　Ａ５　80頁　８３０円　フェミックス　［神奈川］　978-4-910420-08-0　21/10

◆**明日を拓く** 第１２９・１３０号 No.212・213 鳥山　洋編　Ａ５　176頁　２０００円　解放書店　［東京］　978-4-503-22431-6　21/09

◆**仏事** No.252 ２０２１年９月号　奥村　昇編　Ａ４　84頁　１５００円　鎌倉新書　［東京］　978-4-503-22411-8　21/09

◆**月刊住職** No.274 2021年9月号　矢澤　澄道編　Ａ５　189頁　１３６４円　興山舎　［東京］　978-4-910408-00-2　21/09

◆**町田地方史研究** 第２７号　重政　文三郎編　Ａ５　145頁　１３６３円　小島資料館　［東京］　978-4-503-22415-6　21/08

◆**子どもの文化** No.602 ２０２１年１０月号　片岡　輝編　Ａ５　47頁　２９０円　子どもの文化研究所　［東京］　978-4-503-22434-7　21/10

◆**the座** No.110 高橋　彩子編　Ｂ５　36頁　１０００円　こまつ座　［東京］　978-4-503-22433-0　21/09

◆**セセデ** vol.727 ２０２１年１０月号　朝鮮青年社編　Ａ４　48頁　４８２円　朝鮮青年社　［東京］　978-4-503-22428-6　21/10

◆**東京かわら版** No.579 ２０２１年１０月号　佐藤　友美編　203mm × 110mm　146頁　５４５円　東京かわら版　［東京］

売行良好書

期間：2021年9月15日～10月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房　(2)『情報の歴史２１』6800円・編集工学研究所　(3)『がるる　にんじゃになる』1200円・リーブル出版　(4)『嘘つきシンちゃんの脳みそ』1000円・スーパーエディション　(5)『東京の古本屋』2000円・本の雑誌社　(6)『近江の平城』2100円・サンライズ出版　(7)『立花隆　長崎を語る』1300円・長崎文献社　(8)『新　岡山の山１００選』2500円・吉備人出版　(9)『奄美の自然入門』1800円・南方新社　(10)『アイヌモシリ【静かな大地＝北海道】に生きて』2600円・寿郎社　(11)『大谷翔平　挑戦』1300円・岩手日報社　(12)『明治国家と柳田国男』2400円・弦書房　(13)『武田信玄入門』1600円・山梨日日新聞社　(14)『象の旅』2000円・書肆侃侃房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『変格ミステリ傑作選【戦前篇】』1000円・行舟文化　(2)『東京の古本屋』2000円・本の雑誌社　(3)『東西寄席演芸家名鑑　２』2000円・東京かわら版　(4)『本の雑誌 Ｎｏ．４６１　２０２１年１１月号』667円・本の雑誌社　(5)『東京かわら版　Ｎｏ．５７８　２０２１年１０月号』545円・東京かわら版　(6)『混沌の王』1500円・行舟文化　(7)『エモーショナルきりん大全』1700円・書肆侃侃房　(8)『寒気氾濫』1600円・書肆侃侃房　(9)『フリースタイル　ｖｏｌ．４９』888円・フリースタイル　(10)『高尾山登山詳細図全１１２コース』900円・吉備人出版

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房　(2)『風の森を醸す』1200円・京阪奈情報教育出版　(3)『千夜曳獏』1800円・青磁社　(4)『同窓生が語る宮澤賢治』2700円・杜陵高速印刷出版部　(5)『さっぽろ燐寸ラベルグラフィティー』2000円・亜璃西社　(6)『新　日本両生爬虫類図鑑』8000円・サンライズ出版　(7)『朝から「残業」する教師たち』1300円・桂書房　(8)『天皇制と日本史』5800円・中国書店（集広舎）　(9)『調査されるという迷惑』1000円・みずのわ出版　(10)『大島紬の源流を探る』1800円・南方新社　(11)『不知火海民衆史　上　論説篇』2400円・揺籃社　(12)『不知火海民衆史　下　聞き書き篇』2600円・揺籃社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼2017年10月にオープンした栃木県那須町の那須ブックセンターが今年の12月末で閉店するとの一報が入りました。谷邦弘店長名でFAXが届きました。ベレ出版の内田眞吾会長が、出版業界への恩返しとして無書店地域に本屋を作ろうと私財を投じて立ち上げた書店、ということで当時話題になりました。書店の開設に賛同した地主の方が格安の賃料で場所を提供するなど、地元の後押しもあったということですが、売上げが予想を大きく下回り、やむを得ない決断だったということです。

＊

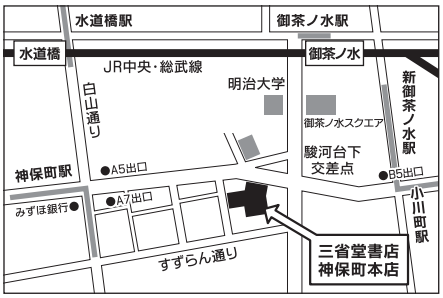
※前号の三省堂書店神保町本店売上良好書順位に誤りがありました。以下の通り訂正させていただきます。

（価格表示は本体価格）

(1)『東西寄席演芸家名鑑　２』2000円・東京かわら版　(2)『変格ミステリ傑作選【戦前篇】』1000円・行舟文化　(3)『本の雑誌 Ｎｏ．４６０　２０２１年１０月号』750円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　Ｎｏ．５７７　２０２１年９月号』636円・東京かわら版　(5)『嘘つきシンちゃんの脳みそ』1000円・スーパーエディション　(6)『１０代のための読書地図』1800円・本の雑誌社　(7)『痛風の朝』1500円・本の雑誌社　(8)『ＤＣプランナー２級合格対策テキスト　２０２１年度版』2500円・経営企画出版　(9)『近江の平城』2100円・サンライズ出版　(10)『第１７回 京都検定 問題と解説』1400円・京都新聞出版

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。